

海外水ビジネスの眼

1. はじめに

内外の水道事業を推進していくうえで、2つの重要なPFがある。最近の業界紙を読んでいて気が付いた。今までの自分の金融経験からは、PF≠プロファイだった。

ところが、水道標準プラットフォームもPFで、金融用語のプロジェクトファイナンス（プロファイ）およびPFI（プロジェクトファイナンスイニシアティブ）のPFとは違う。

水道標準プラットフォームは、水道情報活用システムの中核として、厚生労働省、経済産業省が推進している水道事業広域化の重要なツールであり、水道分野のDX、スマート化のキーワードでもあろう。

2. そもそも、プラットフォームとは

基盤とか高台（例：駅のプラットフォーム）と訳されるが、ITの分野では、プラットフォームフォーマー（プラットフォーム提供者事業者、例Google、Apple、Facebook、Amazon.com（GAFA））とともにしばしば使われる、システムやサービスを稼働させるための基盤である（中国語ではプラットフォームを平台という）。

インフラも基盤と訳されることもあるが、社会インフラとか経済インフラとか公共インフラとか、プラットフォームよりは幅広い概念であろう。

日本を代表する企業であるNECにはNECプラットフォームズ（資本金103億円、従業員7010人）という規模の大きい子会社があり、プラットフォームを使ったソリューションを提供している。また、日立製作所や東芝もプラットフォームに係るサービスを展開している。

2つのPF

2023年3月4日に東京都内でアジア・ゼロエミッション共同体（AZE C）の閣僚会合が行われたが、西村経産大臣は、この共同体につき、（日本イニシアティブの）「カーボンニュートラルに挑戦するアジアの国々からなるプラットフォーム」と述べている。

3. これに対し、プロジェクトファイナンスとは

海外の資源エネルギー開発案件やインフラ投資案件に利用されているプロジェクトの資産やキャッシュフローに

担保価値を見出し、かつ、そのキャッシュフローを独立した信託勘定に入れて返済財源とするスキームである。電力IPP（Independent Power Producer）案件で多く利用されているが、これからは内外を問わず、上下水道事業にも利用されていくことが期待される。

昨年2022年2月には、みやぎ方式が日本の上下水水道コンセッションで、プロジェクトファイナンス第1号案件となり、地元七十七銀行と仙台銀行も参加している。

プロジェクトファイナンスの対語としてコーポレートファイナンスもある。プロジェクトではなくて、会社の信用力に依拠するコーポレートファイナンスのほうがむしろ一般的であろう。コーポレートファイナンスは、会社の信用力（通常格付が付与される）に基づいたファイナンスということで、プロジェクトそのものの信用力に基づく融資ではない。

4. おわりに

これからは、プラットフォームとプロジェクトファイナンス、この2つのPFに留意して、広域化、コンセッション等上下水道事業の今後の在り方を考えていきたい。

（アリス）